



新しい学年のスタートに際して、皆さんに紹介したい詩があります。それは、下記の『教室はまちがうところだ』です。作者は蒔田晋治さんという教員（1945年から40年間、公立小中学校に勤務）で、蒔田さんが中学2年生を担当した時に、学級通信で生徒に呼び掛けた詩だそうです。

かなり昔の詩ですが、今読んでも全くその通りだと思わせてくれる詩です。教室って間違っている所ですね？ 神様だって間違えるのだから、そもそも発展途上の中学生が間違っただって当然のことですね？ 中学生に限らず、私も、間違っただけです。

今回、この詩を紹介したのは、「間違いを恐れず自分を出していこう、間違ってもいいのだよ」というメッセージを伝えたかったからです。でもそれ以上に、間違いを恐れずに自分を出していくというのは 個人の勇気だけの問題ではありません。学級集団の質が問題になります。**お互いの違いを認め合い尊重し合うとか、いろいろな考えを突き合わせて正解を追求する姿勢のある学級集団があって、初めて安心して間違えられる。**このクラスだったら間違っただって誰からも変に思われない。安心して間違えられる。そんなクラスを築いて欲しい。「安心して手が挙げられて、安心して間違えられるクラスを山手台中学校の全クラスで目指して欲しい」と思って紹介しました。

「教室はまちがうところだ」

蒔田 晋治

教室はまちがうところだ みんなどしどし手を上げて
まちがった意見を 言おうじゃないか まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことを おそれちゃいけない まちがったものを ワラっちゃいけない
まちがった意見を まちがった答えを ああじゃあないか こうじゃあないかと
みんなで出しあい 言い合うなかで ほんとのものを見つけていくのだ
そうしてみんなで 伸びていくのだ

いつも正しくまちがいのない答えをしなくちゃならんと思って
そういうとこだと思っているから まちがうことがこわくてこわくて
手も上げないで小さくなって 黙りこくって時間がすぎる
しかたがないから先生だけが 勝手にしゃべって生徒はうわのそら
それじゃあちっとも伸びてはいけない

神様でさえまちがう世のなか
ましてこれから人間になろうとしている僕らがまちがっただって
なにがおかしい あたりまえじゃないか

うつむきうつむき そうっと上げた手 はじめて上げた手 先生がさした
どきりと胸が大きく鳴って どきどきと体が燃えて
立ったとたんに忘れてしまった なんかぼそぼそしゃべったけれども
なにを言ったか ちんぷんかんぷん 私はことりと座ってしまった

体がすうっと涼しくなって ああ言やあよかった こう言やあよかった
あとでいいこと浮かんでくるのに

それでいいのだ いくどもいくども おんなじことをくりかえすうちに
それからだんだんどきりがやんで 言いたいことが言えてくるのだ
はじめからうまいこと言えるはずないんだ はじめから答えが当たるはずないんだ

なんどもなんども言ってるうちに まちがううちに
言いたいことの半分くらいは どうやらこうやら言えてくるのだ
そうしてたまには答えも当たる
まちがいだらけの僕らの教室 おそれちゃいけない ワラっちゃいけない
安心して手を上げろ 安心してまちがえや まちがっただってワラったり
ばかにしたりおこったり そんなものはおりゃあせん

まちがっただって誰かがよ なおしてくれるし教えてくれる
困ったときには 先生がない知恵しぼって教えるで そんな教室作ろうやあ

おまえへんだと言われたって あんたちがうと言われたって
そう思うだからしょうがない
だれかがかりにもワラったら まちがうことがなぜわるい
まちがってることわかればよ 人が言おうが言うまいが おらあ自分であらためる
わからなけりゃあそのかわり 誰が言おうとこづこうと おらあ根性曲げねえだ
そんな教室作ろうやあ

■新入生歓迎会を行いました

入学式を終え、207名の新入生を迎えました。小学校生の時とは違って、中学校では制服を着用したり、教科ごとに担当の先生が変わったり…と、環境の変化がたくさんあります。そのような中で、少しでも早く中学校生活に慣れてもらいたいという願いを込めて、生徒会執行部が中心となって新入生歓迎会を行いました。歓迎会では、各委員会の仕事の説明や動画を使って学校生活で気をつけて欲しいこと（職員室への入り方・保健室や図書室の利用の仕方など）が分かりやすく説明されました。また、会場の準備や司会進行もすべて生徒会の皆さんが行っており、その手際のいい動きに感心しました。これからも、自分たちで考えて主体的に行動できる生徒会であって欲しいと願っています。（4月14日）

